

第6学年 社会科 学習指導案

新居浜市立高津小学校 教諭 古泉 啓悟

1. 単元名 「わたしたちの願いを叶える政治～ワクリエから考える閉校後の施設～」

2. 単元の目標

- ・ 新居浜市の政治は国民主権の考えのもと、市民生活の安定と向上を図る大切な役割を果たしていることを理解することができる。 (知識及び技能)
- ・ ワクリエが完成されるまでの計画から実施までの過程、法令や予算などの関わりに着目して、新居浜市の政治の取組を捉え、市民生活における政治の働きを考え、表現することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- ・ ワクリエを事例に市民生活の安定と向上を図る政治について、主体的に問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、新居浜市にある多目的複合施設「ワクリエ新居浜」を教材として取り上げる。ワクリエ新居浜（以下ワクリエ）は、かつては公立の小学校であったが、少子化が大きな原因となり平成30年に閉校となった。その後、新居浜市が中心となって地域住民や有識者を踏まえた会議、パブリックコメントの実施などを経て、現在のワクリエが開設されるようになった。ワクリエには、子育てで広場があり市内外の未就学の子どもと親が集っている。また、様々なワークショップが開催されたり、中高生が学習できるスペース、企業のオフィス、食堂など様々な人が利用できるようになっていたりしている。このワクリエができるまでの過程を追究することを通して、予算の財源は市民の税金と国からの交付金などによるものであること、予算などは市議会によって決定され、また、その議員は選挙によって選ばれていることを理解することができる。また、ワクリエが完成される前は、東京おもちゃ美術館を誘致する予定であったが、地域住民の反対により建設が中止となった。その理由として、若宮地区は高齢化が進んでおり、高齢者にとっての憩いの場でもあった場所が、おもちゃ美術館になってしまうと自分たちの居場所がなくなってしまうのではないかという声があったことが挙げられる。このような市の方針と地域住民、そして若宮地区以外の市民の様々な願いが反映されて、現在のワクリエに至る。

実際に、新居浜市役所のシティプロモーション課の方、地域住民である若宮公民館の館長さんを招き、それぞれの立場から当時の様子や思いを聞くことで、追究への意欲を高めることが期待できる。そして、自分たちの考えを再構築しながら、だれの願いを取り入れた施設なのか、どのような使用を今後していくとよいのかなど、様々な立場から分析的に考えることができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに社会科において新居浜市の様子を歴史的・地理的な視点から学んでいる。しかし、新型コロナウイルスの影響により、地域の人との交流や見学を十分にはできていない。そこで、6年生となり政治の学習をする上で、教科書に記載される自治体ではなく、児童が生活している新居浜市の施設を取り上げ、実際に関わっている人と出会うことで、より身近に地方自治について学ぶことができると共に、6年後に選挙権をもつ未来の市民としての資質を育成することが期待できる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず東京おもちゃ美術館のホームページを提示し、実は新居浜市に建築予定だったが、予定が変更になり現在のワクリエになったことを知らせる。そこで「なぜおもちゃ美術館がワクリエに変更になったのか」という問いを引き出したい。そして、ワクリエのような公共施設はどのようにしてできるのかを調べ、過程を理解できるようにする。また、公民館長をゲストティーチャーとして招き、反対した理由を話してもらう。これによって、高齢者という自分たちとは違う世代の幸福について気付かせたい。

次に、現在のワクリエの施設やイベントについて調べる。ここでは子育て世代のつながりが生まれる場として機能していること、子どもも大人も楽しめる様々なイベントが開催されていることを理解できるようにする。そのうえで、現在のワクリエの課題について考えさせた後に、よりよい施設の利用方法を考案する活動を取り入れる。

そして、実際に市役所プロモーション課の職員にゲストティーチャーとして来てもらい、施設のよりよい利用方法をプレゼンする。行政の立場からのフィードバックをもらう中で、市は総合計画に沿って市民の願いを取り入れながら企画・運営していることを理解させる。

最後に、おもちゃ美術館の建設に反対した公民館長さんの思いと行動について触れることで、今後の政治参加の在り方について考えさせるようにする。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

公平性…経済的に効果のありそうな施設や特定の一部の層に偏った施設になってしまうと、だれもが安心して過ごせる施設とはいえない。

責任性…これからの市の施設は、行政に任せきりにするのではなく、市民として関心をもったり、ときには行動に移したりするなど一緒になって考えていくことが大切であるということ。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

行政などが決めたことも、それをすべて鵜呑みにするのではなく、本当にそれいいものなのかどうかをしっかりと考え、ときには自ら行動を起こす。

多面的に総合的に考える力

自分にとってよいものではなく、様々な年代や立場からよいものを考える。

進んで参加する態度

よりよい施設の在り方のために自分の立場からできることはないかを考え、積極的に提案し

ようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく、高齢者や幼い子どもなど、同じ時間を過ごす市民が安心して過ごせるまちづくりが大切である。

幸福感に敏感になる

自分たちの世代だけが幸せであることが、社会全体の幸せとは限らない。

・達成が期待される SDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①新居浜市の政治は国民民主権の考えのもと、市民生活の安定と向上を図る大切な役割を果たしていることを理解している。 ②資料を活用して調べて、図や言葉にまとめる技能を身に付けている。	①資料をもとに課題を見出している。 ②よりよい施設の利用方法を提案している。	①現在のワクリエがどのようにしてできたのかを追究している。 ②様々な立場の人の話から、よりよい施設の利用方法を粘り強く模索している。

5. 単元の指導計画 (全 8 時間)

次	主な活動	学習への支援 (・)	評価 (△) 備考 (・)
1	1 問いをもち、今後の学習への見通しをもつ。 ・なぜおもちゃ美術館の方が楽しそうなのにワクリエになったかな。 ・お金が足りなかったのかな。 なぜおもちゃ美術館がワクリエに変更になったのだろう。 2 ワクリエができるまでの過程を知る。 ・公共施設をつくるには予算が必要で、その財源は税金と国からの交付金。 ・市議会によって予算は決定される。 3 おもちゃ美術館建設案が変更になった理由を知る。	・ 東京おもちゃ美術館の様子を見せ、新居浜市に建設予定だったがワクリエに変更になった事実を知らせることで問いをもたせ、追及への意欲を高める ・ 国会の仕組みと関連付ける。 ・ 若宮公民館長さんに当時の思いを説明してもらう。	イ① ア② ウ①

